

「龍谷の森」で生まれた「里山サークル きのっ子」

里山サークル きのっ子（龍谷大学サークル）

このサークルは、授業で「龍谷の森」に興味を持った学生が立ち上げました。間伐や落ち葉掻き、水場創りなどを体験したり、里山の現状について調べたりする中で興味も派生し広がっていきます。同じことに興味を持っている他大学生との繋がりもでき、部員も増えてきました。2006年度は16人で活動していました。これからも情報を学内外に発信し、知識・体験を蓄積していけば部員も更に増え活動の幅も広がるはずです。実際、みなさまさまざまな分野に興味をもっています。鳥が好きな者、昆虫好き、里山の雰囲気惹かれる者。興味の入り口は皆違うので、話題に上る内容も各自の視点が異なっていて毎回の集まりが面白いです。ホームページもあるのでぜひ一度ご覧ください。

http://www.geocities.jp/kinokko_ryukoku/

最近はこの場所へ行くことも増えましたが、新入生を最初に連れて行ったり大事な活動はやはり「龍谷の森」で行っています。今後は、これまでの体験をもとに学生としての意見を持てるようになることが目標だと考えています。以下は、野外で実物に触れ遊び学ぶことを目的にした「里山サークル きのっ子」メンバーの活動報告です。

（カラーページ p.22参照）

1. サークル員の感想

「サークル活動をもとにした卒業論文の作成」

文学部哲学科教育学専攻四回生 飯島 亜希子

私にとって、里山サークルきの子の活動は大学生活に大きな影響を与えました。なぜかという、サークル活動を通して卒業論文のテーマを固めることになったからです。そのテーマは、「環境教育の現状と課題ー自然体験の有効性に着目してー」です。私は、里山へ行く度に、この体験を周囲の子どもへどのように伝えていけばよいのかと疑問に思いました。そこで、子どもたちにどのように働きかければ有効性のある自然体験となるのかを卒業論文のテーマにして調べていきました。

調べ方の中心をインタビューにしました。従来の自然体験の有効性を調査したものは、質問紙や授業の感想文をもとにしたものが多くありました。そのため、児童、生徒、学生の個々の話を聞きだすことに限界がありました。また、自然体験の重要性を唱えるばかりに、体験が十分できない環境にいる者、自然環境に入り込むことを苦手とする者へのアプローチが論じられていませんでした。このことから、卒業論文で3つの調査を実施することにしました。この調査の中でも、サークル活動が活かされました。

まず、1点目は、サークルのメンバーや交流のある京都女子大学の学生に里山での活動を通じてどのようなことを感じるのかインタビューをしました。インタビューをする相手が、普段から接しているメンバーであったため本音を一部でも拾えたのではないかと考えています。インタビューから、2つのことがわかりました。1つ目は、自然の中を継続的に歩き回ることが、何かしらメンバーの自然に対する見方、考え方に変化をもたらしていることがわかりました。2つ目は、自然の中で過ごすからといって、具体的な指導方法を理解することは難しいことがわかりました。

2点目は、近畿中国森林管理局が主催する「デジカメ森林探検隊」という自然観察会へ参加し、自然環境の多い少ないにかかわらず自然体験を可能にする方法を観察して確かめました。もともと、この集まりを指導する方々に出会えたのは、里山ORCの先生方のご紹介です。サークル活動を縁に、私の卒業論文で抱える課題を調べるフィールドが広がりました。

さらに、私の調べるフィールドを広げたのが、3点目の金沢大学「角間の里山自然学

校」です。龍谷大学と交流があるということで、金沢を訪問し里山活動についての貴重な話を聞くことができました。角間の里山自然学校の先生方とお話をする中で、自然への苦手意識を持つ子は、経験したことのないものへの恐怖を抱いている子がいることを知りました。また、仲間と行動することで、未知の世界へ飛び込む恐怖がやわらげられた例を聞くことができました。

以上から、私はサークル活動を通して、卒業論文のテーマを発見し、調べていくことができました。そして、多くの人と出会うきっかけとなりました。私の里山に関する知識はまだまだ微少ですが、里山と関わるのが私の生活を豊かに広げていることを感じます。

「種子サンプル回収について」

経済学部環境サイエンスコース3年生 大郷 隆正

「龍谷の森」には落下してくる種子を調べる為に種子トラップがあります。トラップは直径1mくらいのもので、東エリアに16ヶ所、西エリアに16ヶ所、合計32ヶ所あります。

現在、このトラップに溜まった種子を調査する為に、2週間に1度のペースでサンプルの回収をしています。2006年9月の終わり頃から回収しています。2、3人がかりで回収作業を行っても、2時間くらいかかったりと、大変でした。また、10月、11月頃は落ち葉が大量に入っていて、いっそう回収するのに苦労しました。

また、今年の2月には、金沢大学から先生をお招きして、種子の同定会を行いました。同定会では、これまで回収してきた種子を先生に教わりながら分類していきました。コナラやソヨゴは大きくて分かり易かったのですが、ヒノキやアカマツは、小さかったり、葉っぱに似ていたりして、分類するのに苦労しました。私は同定会に参加するまで、植物の種子についてあまりよく知りませんでしたが、先生に教えて頂いたおかげで、分類の仕方や種子の見分けかたがわかりました。種子の分類は大変ですが、これからもやっていきます。

また、種子サンプル回収もこれからも継続して行います。そして、私は種子サンプルを使って卒業論文を書こうと思っています。現時点ではどのようにまとめるかは未定ですが、サンプルを沢山集めて、そのサンプルから分かったことをまとめようと思います。

「去年の活動を振り返って」

国際文化学部1回生 坂 歩美

去年の活動を振り返ると、いろんな場所でいろんな自然や人と出会えたように思います。特に、国際シンポジウムの準備の時には、自分たちの展示の準備をしたり、いろんな人と触れ合えてとても印象に残っています。また、「龍谷の森」でのサンプル回収も地道な作業だとは思いますが、「龍谷の森」のことが取りに行く度に少しずつ知ることができ、楽しかったです。

今年は、もっと積極的にサンプル回収に参加したいですし、「龍谷の森」にも入ってもっと知らないことを知りたいです。夏にはまた、川に行ってお虫取りや水辺を散策したいです。個人的には、私は虫に興味があるので、虫についても自分なりに勉強したいです。

「きののっ子を通して学んだこと」

経済学部一回生 田中 大

きののっ子に入り僕は今まで以上に環境の事について多くの事を知りました。環境フェスティバルでは各会社、地域の取り組みについてもくわしく知れました。「きののっ子」に入ったことで、環境について違う視点でみれるような気がします。私は来年も環境フェスティバルや環境についてのイベントに参加していきたいと思っています。

「里山との出会い」

谷口大史（たにぐちひろふみ）2002年3月 法学部卒業

めながわ森林組合 業務部 森林整備技術員

「大学に山がある。」そう知ったのは4年になってからのことだった。『植物の自然誌』（土屋和三先生）という講義だったと記憶しているが、その中で土屋先生が瀬田の里山に触れられていた。「興味のある人はどうぞ。」その言葉に誘われ、先生に初めて瀬田の里山に連れて行っていただいたのは2001年の秋だった。

その頃の山は、けもの道ほどの道しかついておらず、決して歩きやすい山というわけではなかったが、数メートル歩いては何でもないような植物に関して先生が仔細に話してくださるので1日歩きまわっても飽きることがなかった。初めて山に入った日は、植

物に関する新しい知識を得たことに対する感動、身近にこんなに刺激を与えてくれるものがあつたのかという感動を覚え帰路についた。

以来、大学を卒業するまでの数ヶ月ではあつたが、暇を見つけては瀬田学舎行きバスに乗り、一人で山を散策するようになった。雨の日に一人で山に入ったときは帰り道が分からなくなってしまう、ずぶ濡れになってさまよったりもした。しかし、そんな日も山の中に川が出来ているのを見つけたりと（グラウンドに降った雨が流れ込んで川になっていた）、訪れる度に新しい発見があり、私をいつも楽しませてくれた。

一人で散策する山も楽しかったのだが、一般の方々で行った堆肥作りやシイタケのほだ木作り、また瀬田北小学校の総合学習での間伐体験など山の中での人との交わりというものも忘れがたい思い出になっている。

現在、私は新潟県内で森林整備の現場作業員として働いている。瀬田の里山での体験がなければ選択しなかった職業ではないだろうか。卒業間近のほんの数ヶ月の里山体験が、今の私の生活を形作っている。

瀬田の里山は一見どこにでもあるような山ではある。だが、人を集め、人に影響を与える里山というのは貴重であると思うのだ。

「私と里山」

2005年3月 法学部卒業

西垣林業株式会社 今井 薫平

私と瀬田の里山との関わりは、大学1回生のときにシラバスで「環境論」という講義の説明に「龍谷の森」という言葉を見つけたことから始まります。「龍谷の森」という言葉に惹かれてその講義を履修しました。その講義の実習で初めて瀬田の里山に行きました。ちょうど梅雨の頃で山の中は湿気が多く、また今ほど人の手が入っていなかったのて藪が生い茂り、とても快適な環境とはいえない状態でした。

そのときに里山再生活動ということで今現在、シイタケのほだ場になっているところの藪を切り開く作業をしました。

その実習がきっかけになって、元々山が好きだったこともあり、その後も里山の活動に参加するようになりました。そうやって活動に参加しているうちに、「自然誌実習」という講義で知り合った仲間で「きのこっ子」ができ、保全の会ができ、大学間の交流がで

き、と次々に色々なことが起こっていきました。

今振り返ってみますと、私が大学生活で得たものは、ほとんどすべてが里山をきっかけとして、また里山と関係して、得られたものです。そしてそれはこれから生きていく上においても、とても大切なものを得たと思います。本来社交的でない私が里山と関係することによって、色々な世界、色々な人と出会うことができたと思います。以前「里山から見える世界」と題したシンポジウムが開かれましたが、まさに私にとって、里山から世界を見たと感じています。

私は龍谷大学に入って良かったと思います。そして、それはやっぱり龍谷大学に里山があったからだと思います。

「里山と私」

2005年3月文学部卒業 橘 冬樹

大学時代に里山活動に関わって二年が経つ。

今ではなかなか里山の活動には参加できないが年に数回は大学の里山に行く。

里山の魅力は何か。と聞かれた時、やっぱり思い立つのは「出会い」である。

私は里山に入りたくさんの仲間と出会った。それは先生であったり、気の合う友だちであったり、人生経験豊富なおじさん・おばさん達である。

私にとって里山での出会いが今の自分に活かされている。

里山活動に関わってきて生まれた関係を今も大事にしている。

その一つが自分たちで作ったサークル「里山サークル “きのこ子”」である。

私たちが作った時分はサークル員わずか6人であったこのサークル。

僕達が卒業と共になくなっていた。

しかし、里山で出会った後輩が頑張って仲間を集い、今では16名を越すサークル員となった。自分たちの時とは違い、かなり賑やかである。

私は嬉しい。大学を卒業と同時に学生や大学と関わる機会はなくなっていた。

しかし「里山」が私と大学・そして学生とを結びつけた。

「里山」に感謝している。そして後輩たちにも感謝している。

私が常に思う事は「何かを作る事よりも出来上がったものを持続させる事の方が大変だろな。」という事である。このサークルが今も続いている事は後輩達が頑張っている証拠

である。

会う毎に成長してゆく彼らをいつも楽しみにしている。

「龍谷の森」の活動についても同じ事がいえるのではないかと思う。

多くの教授や地域の人々が熱心に行っているからどんどん新しい輪が広がっていつていく。

活動報告を聞く度に僕たちが関わっていた時から発展したなと驚かされる。

またそれを楽しみにしている。

私は「龍谷の森」に携わり、色々なことを学んだ。

気軽に相談できる教授や、一緒にいて楽しい友達、おじさん・おばさんとのおしゃべり。

どれも私にとっては大切なものである。本当に良い経験をしてきた。

これからも何らかの形で「龍谷の森」に携わっていけたらなと思っている。

そして新たな「出会い」を楽しみにしている。

2. 活動記録

2007年

- 3月21日（水） 京都市動物園&天体観測
- 6日（火） テン毛皮作り
- 4日（日） 追い出しコンパ
- 2月21日（水） ポンポン山登山（大阪府高槻市）
- 10日（土） 野鳥観察&長浜市観光
- ～11日（日）
- 9日（金） 龍谷の森散策&鳥の講演会
- 1月26日（金） オシドリ観察会（大阪府交野市白幡池）
- 25日（木） 種回収（龍谷の森）
- 21日（日） 餅つき（滋賀県）
- 13日（土） 堆肥作り（龍谷の森）
- 12日（金） 新年会

2006年

- 12月27日(水) 巣箱清掃(龍谷の森)
- 22日(金) 忘年会
- 20日(水) ムササビ観察会in法然院
- 16日(土) 大学間交流会(in龍谷大学)
- ～17日(日)
- 10日(日) 京都環境フェスティバル2006見学
- 11月26日(日) 芋煮会(京都府八幡市)
- 19日(日) 琵琶湖博物館見学
- 11日(土) 京女の森キャンプ(京都市)
- ～12日(日)
- 3日(金) 龍谷祭
- ～5日(日)
- 10月29日(日) 釣りin淀川
- 28日(土) 種回収&シイタケ採集(龍谷の森)
- 21日(土) モグラノセツチンタケ探し(龍谷の森)
- 15日(日) 稲刈り(京都府八幡市)
- 14日(土) 種回収・ムカゴ&クルミ採り(龍谷の森)
- 11日(水) イタチ毛皮作り
- 7日(土) 京女の森キャンプ&京女の森観察会(京都市)
- ～8日(日)
- 9月24日(日) 種回収(龍谷の森)
- 21日(木) タガメ探し(京都府亀岡市)
- 8日(金) 大学間交流会(in京都女子大学)
- ～9日(土)
- 8月25日(金) オオミズナギドリ生態調査(京都府日本海沖冠島)
- ～28日(月)
- 21日(月) 一泊移住居in滋賀県高島市マキノ
- ～22日(火)
- 9日(水) 宇治川ツバメ調査

- 4日(金) 親子ふれあい1DAYキャンプ(滋賀県大津市)
- 7月31日(月) 愛宕山千日詣り(京都市)
- ～8月1日(火)
- 30日(日) エリ漁体験(滋賀県守山市)
- 28日(金) 宇治川ツバメ調査
- 19日(水) 宇治川ツバメ観察
- 15日(土) 四大学交流会(in金沢大学)
- ～16日(日)
- 14日(金) 食事会&祇園祭見物
- 9日(日) 京女の森観察会
- 6月30日(金) 清滝ホテル観察(京都市)
- 25日(日) タンカイザリガニ観察会(滋賀県高島市今津 淡海池)
- 24日(土) 新入生歓迎会
- 11日(日) 哲学の道ホテル観察(京都市)
- 京女の森観察会
- 10日(土) 龍谷の森観察会・池作り 同日ヤマセミ観察(京都府)
- 4日(日) 田植え(京都府八幡市)
- 2日(金) 龍谷の森タケノコ掘り
- 5月31日(水) 龍谷の森タケノコ掘り
- 27日(土) 龍谷の森池作り
- 26日(金) オオミズナギドリ生態調査(京都府日本海沖冠島)
- ～29日(月)
- 20日(土) 竹林整備(宇治市)
- 16日(火) 龍谷の森巣箱観察&タケノコ掘り
- 14日(日) 亀岡 タガメ探し(京都府亀岡市)
- 7日(日) 龍谷の森山菜試食会
- 5日(金) 山菜取りin滋賀県高島市マキノ
- ～6日(土)
- 3日(水) 太神山登山(滋賀県大津市)

- 4月29日（土） 宇治天ヶ瀬ダム周辺散策
 22日（土） 龍谷の森水場作り
 16日（日） 小塩山カタクリ散策
 15日（土） 龍谷の森散策&山菜試食会
 8日（土） ボーリング大会&送別会
 3月19日（日） 愛宕山登山
 6日（月）
 ~7日（火） ワカサギ釣り&スキーinマキノ
 4日（土） 木津川河川敷ノビル採り
 3日（金） 宇治川河川敷鳥観察会
 2月27日（月） 龍谷の森巣箱設置作業
 22日（水） 巣箱作り
 18日（土）
 ~19日（日） 四大学交流会（in九州大学）
 9日（木） 龍谷の森小学生案内会
 1月22日（日） 餅つき大会
 21日（土） 龍谷の森堆肥作り
 14日（土） 新年会
- 2005年
- 12月22日（木） 忘年会
 17日（土）
 ~18日（日） 四大学交流会（in龍谷大学）
 11月23日（水） 釣り（和歌山県加太）
 4日（金） 龍谷祭
 ~6日（日）
 3日（木） ブナの森観光（福島県南会津郡只見町）
 ~5日（土）
 10月30日（日） 龍谷の森自然薯掘り
 16日（日） 京女の森観察会

- 15日(土) 龍谷の森散策
- 2日(日) 芋煮会(京都府八幡市)
- 9月18日(日) 四大学交流会(in京都女子大学)
- ~19日(月)
- 14日(水) 稲刈り(京都府八幡市)
- 8日(木) マキノ合宿
- ~10日(土)
- 1日(木) 宇治川河川敷ツバメ調査
- 8月12日(金) 宇治川河川敷ツバメ調査
- 9日(火) クワガタ採り(大阪府交野市)
- 5日(金) 一泊移住in滋賀県高島市マキノ
- ~6日(土)
- 7月30日(土) 龍谷の森観察会
- 24日(土) 田んぼウォッチング
- 14日(木) 祇園祭
- 6月18日(土) 龍谷の森パイプ設置作業
- 12日(日) 京女の森観察会
- 5月31日(火) 龍谷の森タケノコ掘り
- 29日(日) 田植え
- 28日(土) 四大学交流会(in金沢大学)
- ~29日(日)
- 15日(日) 炭焼き小屋見学
- 8日(日) 京女の森観察会
- 4月29日(金) 比叡山登山
- 10日(日) 京女の森観察会